

今後の課題について（報告 3）

① 新型コロナウイルス感染症による影響及び今後の見込みについて

「(1) ぐるりんバスの運行状況について」でお示したとおり、新型コロナウイルス感染症の影響により令和2年4月、5月に乗車人員が大きく落ち込みましたが、6月以降は回復傾向が見られ、収支率は今後も、運行継続基準である30%前後となる見込です。

資料3－別紙1の通り、前回の地域公共交通会議で、再編案について今後検討の必要があることをご報告いたしました。しかし、依然として新型コロナウイルス感染症による影響が長期間にわたり続いていることから、減便や支線の廃止を伴うルート再編については、庁内でも慎重な議論を求める意見があります。

収支率に基づく検証とは別に、「(2) 市議会で採択された2件の陳情について」のとおり、西砂川循環線（堀向線）が減便となった地域については応急の対応が必要であるため、今回、協議事項としております（資料4）。

西砂川地域の路線バスとの関係を踏まえたルート再編は、引き続き検討が必要であり、収支率等の課題も含め、ぐるりんバス全体のルート再編については、コロナ後の利用者数の動向等を見極めながら、再検討していくことといたします。

② 市民の移動に関するプロジェクト（庁内プロジェクト）について

市職員による「立川市民の移動に関する検討プロジェクト」は、昨年度は12月に行い、課題の把握方法等について検討しました。現状でできる課題把握の方法として、①市民満足度調査（現：市政に関するアンケート）②各課ヒアリング③地域福祉コーディネーターヒアリング 等が挙げられました。

①市政に関するアンケートの設問について、どの地域のどの年代が地域公共交通への満足度が低いか、また、移動する目的や困難を感じる理由等の把握ができるよう工夫し、今年度のアンケートに活かしました。しかし、本来このアンケートは、傾向を知ることはできますが直接施策の根拠となるものではないため、結果の分析で傾向を把握するにとどまっています。

②移動が困難と考えられる市民の移動が関係する各課にヒアリングを行い、市民の困りごとの内容を把握しました。

③地域福祉コーディネーターから意見を聴き、地域でコーディネーターに寄せられる困りごとの内容を把握しました。

8月31日に、令和3年度のプロジェクトを開催し、調査結果等を確認しますので、結果を次回ご報告いたします。

前回の報告事項について

(1) 運行継続基準について

平成 28 年度に作成しました「立川市コミュニティバス（くるりんバス）再編計画（以下、「再編計画」という。）」において、運行再編後の継続又は廃止を判断する基準として「運行継続基準」を設定しています。令和元年 8 月の再編について、この基準を適用すると (2) の通りとなります。

【運行継続基準】収支率 30%以上

※収支率：運賃等収入÷運行経費（再編等に係る経費を除く）×100

(2) 実証運行の検証（PDCA サイクル）について

令和 2 年度第 2 回立川市地域公共交通会議において、再編計画において示されている「実証運行から本格運行への流れ」に沿って以下のとおりの状況をご報告し、再編案について今後検討することとしました。

①収支率 30%以上
 【N o】 実証運行期間（令和元年 8 月～令和 2 年 12 月）の収支率：28.8%

②利用者が増えており、継続基準の達成が見込める
 【N o】 新型コロナウイルス感染症の影響もあり、利用者の増加は見込めない。また、令和 3 年度からは経常経費（人件費）が増加するため、更に収支率が悪化する見込みである。

③経費削減や利用者増の改善策が検討できる
 【Yes】 ルート再編等により効率的な運行を行うことで経費を削減し、収支率 30%以上の達成を目指す。

